

群 教 セ	F03 - 01
	平 17.230集

マルチメディア資料集

「わたしたちの玉村町」の作成

－ 地域に残る文化財や年中行事に視点を当てて －

特別研修員 長谷部 桂一 (玉村町立南小学校)

〈研究の概要〉

本研究では、小学校社会科第4学年「古いもの探し」の学習において、課題解決への意欲を高め、現地調査やインタビュー活動につなげるため、玉村町の文化財や年中行事の静止画や動画を集めたマルチメディア資料集「わたしたちの玉村町」を作成することを目的とした。マルチメディア資料集は、児童の学習課題「どこ」「何」に応じて『玉村町の地図から』、『小学校の地図から』、『写真から』、『動画から』で構成されている。

キーワード 【教材・教具 社会 - 小 マルチメディア 地域教材 Web形式】

主題設定の理由

小学校学習指導要領社会科第3学年及び第4学年の目標には「地域における社会的事象を観察、調査し、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにする。」と示されている。これを受け、第4学年では、地域に残る文化財や年中行事について見学したり、調べたりする活動を行う。具体的には地域の人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心について、現地調査やインタビュー活動などの追求活動を行う。

玉村町には特色ある文化財や、祭りなどの年中行事が多くある。文化財は国道354号線（例弊使街道）に沿って残っているが、本校の所在地を考えると、文化財が多く残る国道354号線からは離れており、一斉学習としての見学はできても、授業外に児童自ら現地に行って調査する追求活動につなげることは難しい。玉村町で行われている祭りについても、休日に行われることが多く、社会科見学として設定することも難しいし、見学の時期を逃すと見ることもできない。文化財や年中行事について学習課題を設定した場合、文化財の位置や分布（どこ）、文化財の特徴（何）、文化財に対する人々の願い（目的）、文化財の歴史（いつ）など、様々な学習課題が作られ、追求活動が始まる。この課題を解決するためには現地へ行って調査をしたり、文化財や年中行事に携わる人々

にインタビューしたり、役場でパンフレットをもらったりすることが望ましいが、授業の中では時間的に制約されてしまう。また、学校や町の図書館にある玉村町の文化財や年中行事に関する資料は乏しい。

そこで、学習の時期や校区の地理的な環境に制約されずに学習課題の解決を支援するため文化財や年中行事の静止画や動画を集めたマルチメディア資料集「わたしたちの玉村町」を作成する。マルチメディア資料集は、児童の学習課題「どこ」「何」に応じて『玉村町全体の地図をクリックして調べることができる形式』『校区ごとに地図を作製し、クリックして調べる形式』『建物、祭り、古墳、碑というように分類しサムネイルで静止画や動画を見て調べる形式』で構成されている。

児童が地域に残る文化財や年中行事を調べるに当たり、学習課題の解決を支援するマルチメディア資料集を用いて追求活動を行えば、課題達成の充実感や満足感を味わい、「実際に見てみたい」、「もっとくわしく知りたい」といった意欲が高まる。そして、現地に行って調査したり、文化財や年中行事に携わる人々にインタビューしたりするような追求活動につながるようになると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

小学校社会科第4学年「古いもの探し」の学習において、課題解決への意欲を高め、現地調査やインタビュー活動などの追求活動につなげるた

め、玉村町の文化財や年中行事の静止画や動画を
集めたマルチメディア資料集を作成する。

研究の見通し

玉村町にある文化財や年中行事に関する静止画
や動画を収集し、児童の学習課題「どこ」「何」
に応じて、文化財や年中行事の説明のページが表
示されるように工夫すれば、文化財や年中行事の
場所や特徴、人々の願いなどが分かり、実際に見
てみたいといった意欲が高まり、現地調査やイン
タビュー活動などの追求活動につながるマルチメ
ディア資料集ができるであろう。

研究の内容

1 マルチメディア資料集の概要

(1) 基本的な考え方

本資料集はどのコンピュータでも活用すること
ができるWeb形式で作成する。Web形式で作成
された本資料集はマウスの操作だけで活用できる
ため有効である。

ア 興味・関心を高める工夫

玉村町の祭りに小学生が参加している動画を盛り
込む。

イ 児童の学習課題に応じて活用させる工夫

玉村町全体の地図をクリックして調べること
ができる形式

校区ごとに地図を作製し、クリックして調べ
る形式

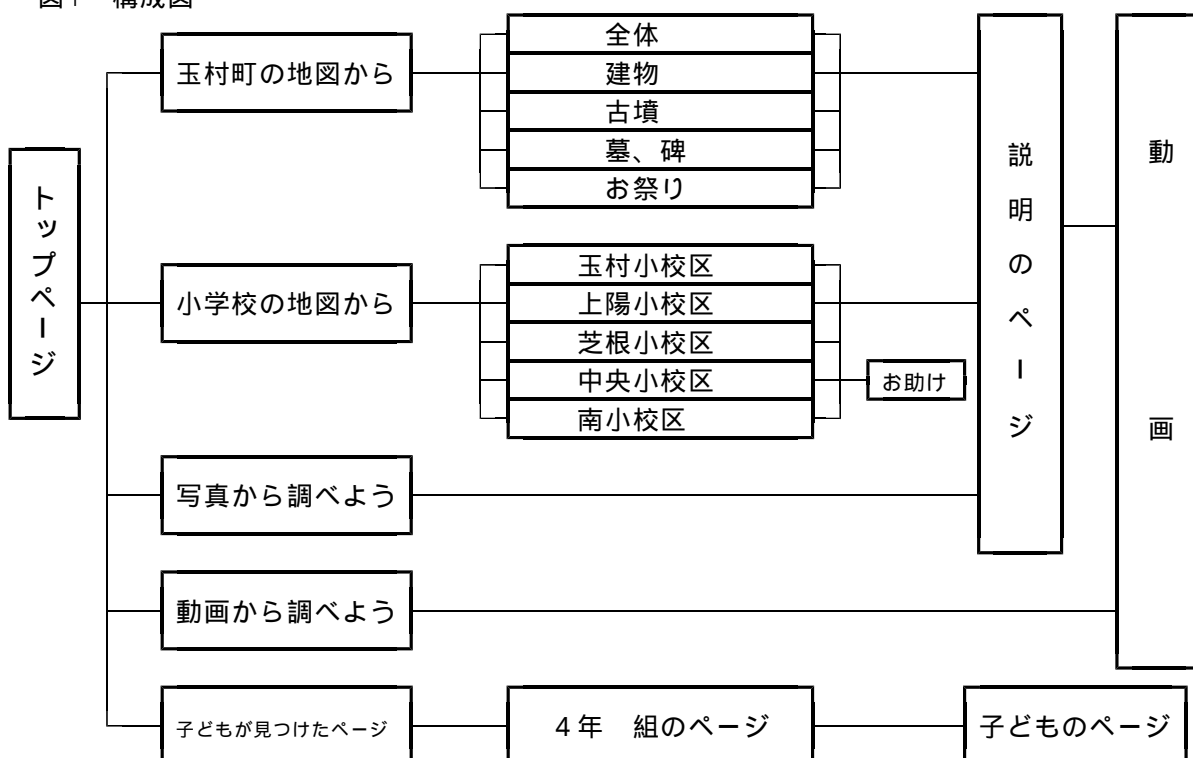
サムネイルで静止画や動画を見て調べる形式

ウ より深く理解させるための工夫

本資料集に入っていない文化財や年中行事を見
つけた際には、「子どもが見つけたページ」とし
て新たなページを作成する。本資料集の中に児童
が作成したページを盛り込むことによって、学習
に対する意欲を高めるとともに玉村町の歴史につ
いてより深く理解させる。具体的には、本資料集
にない文化財や年中行事の様子を絵や文で紙に表
し、それをスキャナで取り込み、地図上のアイコ
ンとリンクさせる。また、文化財や年中行事につ
いてより深く理解させるために「お助け」ボタ
ンを作成した。「お助け」ボタンをクリックすると、
「浦野神村って何をした人だろう」というよう
により深く調べを促す言葉や、「玉村八幡宮
と角瀬八幡宮の似ているところと違うところは何
だろう」といった新たな視点や比べ方をアドバ
イスする言葉が表示される。

(2) マルチメディア資料集「わたしたちの玉村町」
の構成(図1)

図1 構成図



2 マルチメディア資料集「わたしたちの玉村町」の内容

(1) トップページ(図2)

玉村町の文化財や年中行事を調べる方法として「玉村町の地図から」「小学校の地図から」「写真から調べよう」「動画から調べよう」の四つのボタンを作成した。

児童の学習課題に適したページが簡単に探せるように、フレームのページを作成し、ボタンを配置した。児童の操作を考慮し、階層が深くないようフレームを使って操作が簡単にできるようにした。

(2) 玉村町の地図から(図3)

玉村町全体の地図が表示される。大きな道路や川、橋のみが表示され、細かな道路は表示されない。目印となる建物はアイコンで表示してあり、カーソルをあわせるとロールオーバー機能で写真が表示される(図3)。建物、古墳、碑、祭りが色分けされたアイコンで表示され、アイコンをクリックすると別ウィンドウで説明のページや動画のページが表示される。このページには有名な建物や祭りしか表示されないことになっており、玉村町に残る文化財や祭りの場所と特徴を知るページとなっている。また画面上部にある「建物」「古墳」「墓、碑」「祭り」ボタンをクリックすると、その項目だけのアイコンが表示され文化財の分布の様子を知ることができるようになっている。

(3) 小学校の地図から(図4)

自分が調べたい小学校区の空中写真をクリックし、それぞれの校区への地図(図5)へジャンプしていく。空中写真を見ることによって、それぞれの学校の周りの様子も理解できる。住宅が密集している校区、水田に囲まれている校区など文化財と土地利用の関係に気付かせることができる。

(4) 各小学校の校区の地図(図5)

住宅地が黄色、水田や畑が緑と色分けした地図が表示される。これは、文化財が残っている地域がどのように土地利用されているか、つかませるためである。文化財のボタンをクリックすると、図6のような説明のページが別ウィンドウで表示される。別ウィンドウで表示されるので、地図上の位置を確認したり、複数のウィンドウを開き比較したりすることもできる。

また、目印となる建物などがロールオーバー機能で表示され、場所を特定しやすくしてある。

ページの下には各小学校校区へのリンクがあ

図2 トップページ



図3 玉村町の地図から

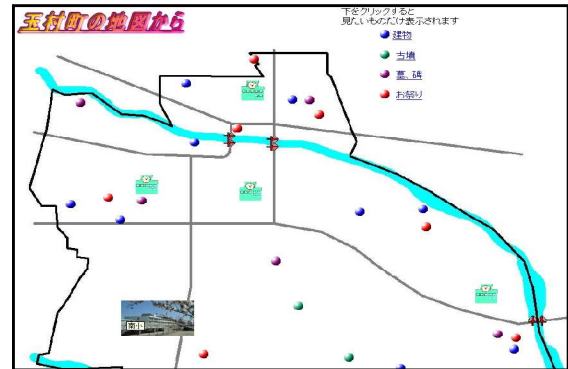


図4 小学校の地図から



図5 各小学校の校区の地図



り、どの校区へもジャンプしやすくしてある。

また、「お助け」ボタンをクリックすると、「浦野神村って何をした人だろう」というようにより深く調べることを促す言葉や、「玉村八幡宮と角淵八幡宮の似ているところと違うところは何だろう」といった新たな視点や比べ方をアドバイスする言葉が表示される。

「各小学校の校区の地図」では、以下の目的で利用する。

文化財や年中行事の名前と写真を対応させる
学習課題の答えを探す

一つの校区の様子をつかむ

複数の校区の様子を比較する

(5) 写真から調べよう(図7)

この資料集に収められている説明のページの全てがサムネイルで表示される。文化財の形や特徴から入るページである。

写真をクリックすると別ウィンドウが開き図6のような説明のページが表示される。

「写真から調べよう」のページでは、以下の目的で利用する。

写真を見て、文化財の形や特徴を知る

説明付きのページから文化財についてより深く知る

文化財と文化財を比べ、新たな課題を設定する

(6) 動画から調べよう(図8)

玉村町で行われている年中行事のうち祭りの動画をサムネイルで表示してある。自分が調べたい祭りをクリックすると、動画を見ることができる。動画は玉村町教育委員会が作成したものを編集した。ナレーション付きで、祭りが始まった由来、人々の願い、現在まで続けられている人々の努力について調べることができる。

(7) 説明のページ

地図をクリックしたり、サムネイルで表示された写真をクリックすると図9のようなページが表示される。説明は児童に理解できるような簡単な言葉で説明してある。難しい漢字にはふりがなも付けてある。説明はあまり詳しくせず、現地に足を運び、もっと調べてみたいといった意欲を高められるようにしてある。

祭りが行われている神社には「動画へのリンク」が設定されており、クリックすると別ウィンドウが開いて動画を見ることができるようになっている。

図6 説明のページ(角淵八幡宮)



図7 写真から調べよう



図8 動画から調べよう



図9 説明のページ(飯玉神社)



3 実践結果と考察

(1) 実践の記録

対象 玉村町立南小学校 4年生 36人
 教科など 社会科 単元名「古いもの探し」
 単元の目標 玉村町に残る祭りや文化財について調べる活動を通して、人々の祭りや文化財に込めた願いについて理解する。

過程	時間	主な学習活動	学習への支援および留意点	検証の視点と方法
つかむ	2	<p>共通課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 玉村町に残る古いものについてくわしくなろう。人々のどんな願いが込められているのかな。 </div> <p>玉村町に残るたくさんの祭りについての興味・関心を高めた。 すみつけ祭りの動画を視聴し、祭りに込める人々の気持ちについて予想し、学習課題を設定した。</p>	玉村町のどこで、どんな祭りが行われているのか、興味・関心を高めるために、玉村町全体の地図を黒板に貼り、祭りの写真を貼り付けさせる。 祭りに込められた人々の気持ちを予想させるために、人々の表情が読みとれるすみつけ祭りの動画を視聴させる。	小学生が登場するすみつけ祭りの動画を視聴することによって、祭りに対する興味・関心が高まったか。 (観察)
追求する	3	<p>昔をうけつぐ</p> <p>玉村町で行われている祭りや行事を知り、どんな気持ちが込められているのか、祭りを続けていくためにどんな努力があるのかなど自分なりの学習課題を設定し、調べ活動を行った。調べた内容は学習プリントにまとめた。</p> <p>町に残る古いもの</p> <p>玉村町に残る古い建物や古墳、碑などについて、場所や特徴について自分なりの学習課題を設定し、調べ活動を行った。調べた内容は絵や文で学習プリントにまとめた。</p>	祭りについての理解を深めさせるために、マルチメディア資料集「わたしたちの玉村町」を使用する。 調べたことをノートに書かせる際には、資料集のどこを引用したのかを明確にさせる。 町にのこる文化財についての理解を深めさせるためにマルチメディア資料集「わたしたちの玉村町」を使用する。	マルチメディア資料集を活用して、自分の課題を追求しているか。 (観察、プリント) 資料集を活用して文化財や年中行事の特徴、人々の願いについて理解できたか。 (プリント) 他の文献資料を集めたり、現地調査を行ったりしているか。(プリント)
まとめる	2	自分が調べてきた文化財や祭りの中から一つ選び、場所や特徴、人々の願いなどについて絵や文でまとめた。 自分で見つけた文化財や祭りを「子どもが見つけたページ」としてまとめた。 文化財や祭りがどの地域に多く残っているか、地図を見ながら分析した。	マルチメディア資料集や現地調査、インタビュー活動、文献調査など、どの方法で得た知識なのかを明確にさせる。 「子どもたちがみつけたページ」を作成し、学習に対する意欲を高める。 玉村町が例幣使街道の発達と共に発展してきたことについてより深く理解させるために、地図上に示された文化財の分布を分析させたり、地理的な考察を加えさせたりする。	どのページを選んで調べたか。 (アンケート) 本資料集以外の文化財や年中行事を見つけたか。 (プリント)

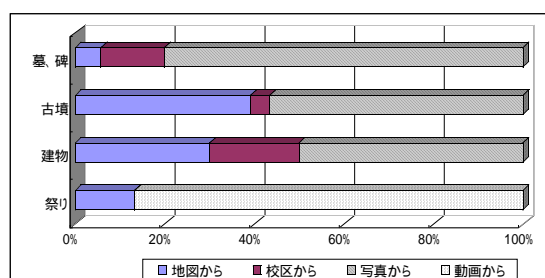
(2) 自作ソフトの有効性の検証

ア 児童の学習課題に応じたマルチメディア資料集になっているか

学習課題を解決するに当たり、どのボタンを使用していたのか調査したところ、図10のとおりとなった。「墓、碑」「古墳」「建物」を調べる際には様々なボタンを使用していた。このことから児童は個々の課題に応じてボタンを選択し、調べ活動を行っていたということが分かる。「祭り」については圧倒的に「動画から調べよう」のボタンを使用していた。祭りを説明するページにすぐたどり着ける構成になっていたからである。

つまり、説明のページにたどり着くための入り口を多くすることは、児童の学習課題に応じた調べ活動を支援するという点で有効である。

図10 使用したボタンの割合

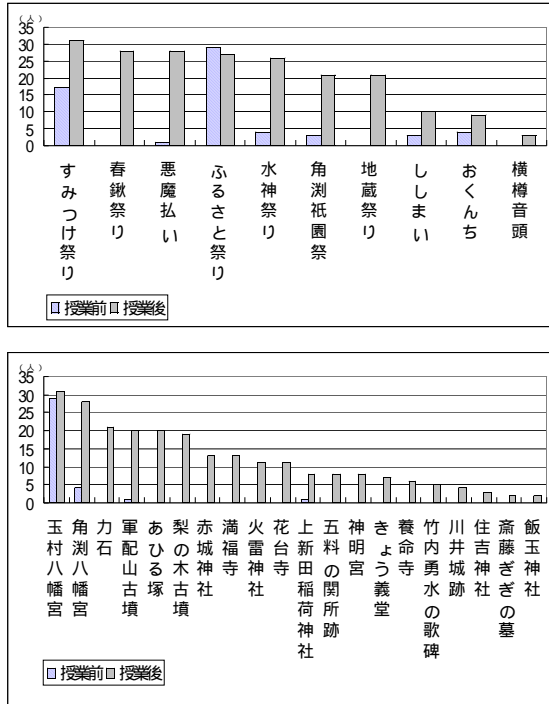


イ 児童の意欲を高め現地調査やインタビュー活動などの追求活動につながったか

玉村町の文化財や年中行事を調べるに当たりマルチメディア資料集を活用したところ、授業中における調べ学習は一生懸命行っていた。クリックをすれば自分が調べたい文化財や年中行事にたど

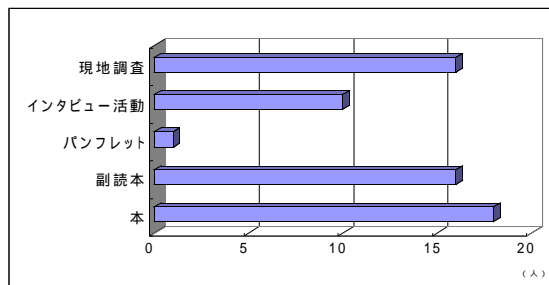
り着けるため、児童にとっては活用しやすい教材であった。さらに、今まで自分が知らなかった情報を得ることができたため、玉村町の文化財や祭りについての知識が増え、課題解決への意欲が高まった(図11)。

図11 授業前と授業後の知識の比較



本やパンフレットなど、他の文献資料を集めたが、さらには現地調査を行ったり、家族や地域の人にインタビュー活動を行ったかについて、アンケート、観察などを通して分析したところ、図12のとおりとなった。

図12 授業外の学習



また、本資料集に入れてない文化財一カ所、祭り二つを新たに発見してきた。「子どもが見つけたページ」を作成することで、進んで探そうとする意欲が高まった。

つまり、マルチメディア資料集を活用したことにより、課題達成の充実感や満足感を味わい、実

際に見てみたい、もっとくわしく知りたいといった意欲が高まった。

ウ 他の学習方法との比較

これまでの学習では副読本やパンフレットなどを活用して学習を進めていた。文字や写真からの情報により理解を深めていた。ところが、動画を盛り込んだマルチメディア資料集を活用したことによって、祭りの雰囲気や臨場感までも理解することができた。児童の記述の中に「水神祭りはわらで作った大きな船を利根川に流します。」「すみつけ祭りは大根にすみをつけて、町の人みんなにすみをつける。動物にもすみをつける。」というものがあり動画から理解を深めていたことが分かる。また、ナレーションを繰り返し聞くことができるのも本資料集の良さである。文化財の説明についても、副読本では写真のみの掲載で特徴について理解を深めることが難しかったが、本資料集では自分の操作で詳しい説明を表示することができるため、理解を深め、学習への意欲が高まった。

研究のまとめと今後の課題

児童の学習課題「どこ」「何」に応じて文化財や年中行事の説明のページが表示されるように工夫したことにより、課題解決の充実感や満足感を味わうことができ、学習への意欲が高まった。また、現地調査やインタビュー活動などの追求活動につながったことから、学習課題の解決を支援するマルチメディア資料集となった。

課題としては、児童に与える情報をもう一度吟味することが挙げられる。道端の道祖神やお地藏様に目を向ける児童はいなかった。大きな文化財だけでなく、昔の人々の願いが込められた小さなものにまで目が向けられるような教材になるよう、情報の取捨選択をする必要がある。

<参考文献>

- ・玉村町 『玉村町史』
- ・玉村町歴史資料館 『玉村町のまつり』
- ・玉村町教育研究所 『玉村町れきし探検ものがたり』
- ・玉村町教育委員会 『玉村町の文化財』

<使用ソフト>

- ・IBMホームページビルダー Version 8

(担当指導主事 小池 千秋)